

平成28年度「住田航空奨励賞」受賞作決定

受賞作

轟木一博 著「空港は誰が動かしているのか」（日本経済新聞出版社）

受賞理由

本著作は、そのタイトルのとおり、空港運営に焦点を当てて、著者の実務担当者としての経験を基に、空港運営のポイントや重点課題、その解決策、課題認識等について論じたものである。航空分野のうち、公共的な性格を有する空港の運営のあり方は大きな転換期を迎え、空港経営改革は最重要課題の一つである。本著作は関空・伊丹の経営統合の他、仙台空港、高松空港、福岡空港と昨今取り組まれているいわゆる空港民営化（コンセッション方式）の最重要案件である関空・伊丹のコンセッションについて、国の立場及び関空の立場という両面から直接の担当者として関わった経験を十分に活かし、臨場感溢れる形で展開している。これらは航空関係者のみならず、社会一般にも関心の高いタイムリーな論点であるが、当事者でなければ知り得ないと思われる内容も含め詳述しており、プロジェクトの歴史的記録としての価値も有しており、現在類書が見られない本著作の特徴である。

また、空港は、国、地方自治体、ターミナルビルを運営する株式会社、エアライン、利用者等の様々な主体が関わっているが、本著作は空港経営改革という事例を基に政治的な側面も含めた多様な主体から成る調整過程を含む政策形成過程を明らかにしており、行政学的にも意義をも有するものであると言える。

さらに、本著作は空港経営改革以外にも、空港が成り立つ仕組みや空港が不採算となる理由等、空港の運営に係る様々なトピックスや課題について、具体的かつ舌鋒鋭く詳述している。その際には、上述のとおり、航空当局及び関空に従事した経験を有する筆者は、専門家の視点を持ちつつも、広く一般の読者も想定して、鉄道との比較等を用いながら平易に解説しており、そのため本著作は、極めて読みやすく、かつ理解しやすいものとなっている。

このような諸点を考慮しつつ、当選考委員会としては、「空港は誰が動かしているのか」を今年度における「住田航空奨励賞」の受賞に相応しい著作として、高く評価するものである。